

平成8年度冬作(麦類・いぐさ・水稻刈跡) 関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成8年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成9年9月2日(火)、池之端文化センターにおいて開催された。

本年度供試された冬作関係除草剤は、作用性試験2剤、適用性試験13剤、生育調節剤

は、0剤であった。

このうち適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行った。

その結果は、次表のとおりである。

平成8年度 冬作関係除草剤・生育調節剤中央判定および使用基準

A. 除草剤

I. 小麦

薬剤名	中央判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. BGX-816 水溶 ・ビアリス 8% ・グリホサート 16% [インハルス普及会 (事; 明治製菓)]	実	一年生雑草全般	茎葉	耕起7日以前	50 ~ 60g (散布水量 10L)	全土壌	寒冷地 温暖地	1) 周辺作物への飛散に注意する。	
		多年生雑草(シハメキ等)			80 ~ 100g (散布水量 10L)		寒地		
2. DPX-16 ①細粒 ・フェンソルフロンメチル 0.15% [丸和バイオミカル]	実・継	一年生広葉雑草およびスミバタバコ	土壌	播種後~小麦3葉期 雑草発生前	400 ~ 500g (但し小麦1~3葉期では400 ~ 600g)	全土壌を (砂土を除く)	寒冷地南部以西 (畑作・水田裏作)	1) 碎土、整地、覆土を ていねいに行つて均一に散布する。 2) やまぐうに効果の劣る場合がある。 播種後処理の場合はやまぐうに有効な剤との体系処理を行う。	・地域拡大
3. FKH-15 水和 ・ブタリス 30% ・DCMU 15% [サンケイ化学]	継								・効果・薬害の再検討 ・砂壌土での薬害の確認
4. HSW-922 乳(EW) ・フェンソルフロンメチル 2% ・IPC 30% [北海三共]	実・継	一年生雑草全般	土壌	播種後 小麦2葉期	20ml (散布水量 10L)	全土壌を (砂土を除く)	寒地 (畑作)	1) 越冬した雑草に効果が劣る。	・地域拡大
		一年生広葉雑草	茎葉兼土壌	春雑草発生始期	10 ~ 15ml (散布水量 10L)				
5. NC-362 水和 ・ジラフエニカ 4% ・IPC 30% [日産化学工業]	実・継	一年生雑草全般	土壌	播種後雑草発生前	20 ~ 25g (散布水量 10L)	全土壌を (砂土を除く)	寒地 (畑作)		・地域拡大 ・薬害の変動要因について
			茎葉兼土壌	小麦2~4葉期					
6. NH-9301 7077 [®] ル ・ビラフゾエチル 2% [日本農薬]	実・継	一年生広葉雑草	茎葉	広葉雑草2~4葉期 春雑草発生始期	5 ~ 10ml (散布水量 10L) 5 ~ 7.5ml (散布水量 10L)	全土壌を (砂土を除く)	全域 (畑作・水田裏作)	1) 体系処理; イネ科雑草に有効な既登録土壌処理剤との組み合わせで使用する。 2) 極端な低温条件では 10ml を使用する。 3) 越冬した雑草に効果が劣る。(寒地)	・低温条件での効果について ・寒冷地以西での融雪後の効果について

薬剤名	中央判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
7. SC-224 液 ・グリサートリメタム塩 38 % [タチタウ協議会 (事;ゼネカ)]	実・継	一年生雑草全般およびシバムギ	茎葉	耕起7日以前雑草生育期	20 ~ 40ml (散布水量10L 但し温暖地以西は 水量2.5 ~ 10L)	全土壌	全域	1)少量散布の場合 は専用ノズルを使用する。	・少量散布について ・寒冷地以西の多年生雑草について
8. WOC-01 液 ・グリサートリメタム塩 41 % [三共]	実・継	一年生雑草全般 多年生雑草(シバムギ等)	茎葉	耕起7日以前雑草生育期(草丈30cm以下)	25 ~ 50ml (散布水量10L) 50ml (散布水量10L)	全土壌	温暖地以西 寒地		・多年生雑草に対する効果の確認 ・地域拡大
9. YF-65 液 ・ジクワット・プロミット 7% ・パラコート・クロイト 5% [ゼネカ]	実・継	一年生雑草全般	茎葉	耕起前雑草生育期 播種後～出芽前 (耕起後残存雑草対象)	60 ~ 100 ml (散布水量10L)	全土壌	寒冷地 暖地 温暖地 暖地	1)周辺作物への飛散に注意する。 2)展着剤を加用する。	・地域拡大

II. 大麦類

薬剤名	中央判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. DPX-16 ①細粒 ・チフェソルフロメチル 0.15 % [丸和ハイチミカル]	実・継	一年生広葉雑草およびスズメバネ等	土壌	播種後～大葉3葉期 雑草発生前～雑草発生始期	400 ~ 500g (但し大麦1～3葉期は400～600g)	全土壌 (砂土を除く)	寒冷地南部以西 (畑作・水田裏作)	1)砕土、整地、覆土を ていねいに行って均一に散布する。 2)イエムグーに効果の劣る場合がある。 播種後処理の場合はイエムグーに有効な剤との体系処理を行う。	・地域拡大
2. NH-9301 ・フロンテール 2 % [日本農業]	実・継 (前年通り)	一年生広葉雑草	茎葉	広葉雑草2～4葉期	5 ~ 10ml 散布水量10L	全土壌 (砂土を除く)	寒冷地以西 (畑作・水田裏作)	1)体系処理・イネ科雑草に有効な既登録土壌処理剤との組み合わせで使用する。 2)極端な低温条件では10mlを使用する。	・地域拡大 ・低温条件下での効果の確認 ・寒冷地での融雪後の効果について
3. YF-65 ①液 ・ジクワット・プロミット 7% ・パラコート・クロイト 5% [ゼネカ]	実・継	一年生雑草全般	茎葉	耕起前雑草生育期 播種後～出芽前 (耕起後残存雑草対象)	60 ~ 100 ml (散布水量10L)	全土壌	寒冷地 温暖地 温暖地 暖地	1)周辺作物への飛散に注意する。 2)展着剤を加用する。	・地域拡大 ・播種後処理での効果の確認

Ⅲ. いぐさ

薬剤名	中央判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. KPP-314 ㊟ 7077 [®] ル ・ペンチサ [®] 2.9 % [科研製薬 三井東圧農業]	実・継	一年生雑草全般	土壌 (湛水)	植付後 雑草発生 前(11月 ～12月) 春雑草発 生前(3 月下旬～ 4月中旬)	50ml	埴壌土～ 壤土 砂壌土～ 埴土	温暖地西 部以西	1)原液がいぐさ茎に付着すると褐変症状を生じることがあるので収穫茎発生後は使用しない。 2)他剤との組み合わせで使用する。	・水口処理での効果、薬害の検討 ・適用土壌の拡大
2. RYH-118 粒 ・オキザ [®] アルキ [®] ル 0.5 % [ロ・ヌ・フ [®] ・ラソ油化 77 [®] ロ]	継								・効果、薬害の再検討
3. SL-498-1kg 粒 [石原産業]	実・継	一年生雑草全般	土壌 (湛水)	植付後～ 冬雑草発 生前 (11月～ 12月) 雑草発生 始期～ 7 [・] 1 [・] 1.5 葉期 (4月上 ～中旬)	100g	埴壌土～ 壤土	暖地	1)他剤との組合せで使用する。	・効果、薬害の確認

Ⅳ. 水稻刈跡

薬剤名	中央判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. WOC-01 液 [三共]	実・継	一年生雑草 多年生雑草	茎葉	水稻刈取後 雑草生育期	25～50 ml (散布水量10L) 50～100 ml (散布水量10L)	全土壌	温暖地 暖地		・多年生雑草への効果について適用地域での確認

新刊 日本原色植物ダニ図鑑

江原昭三／編集
A5判 定価13,000円(税込)

微少で判別の困難な代表種といえる植物ダニ。本書は代表種88種をカラー写真と形態図・記載により解説した判別図鑑。農業上被害の大きいハダニについては、別項を設け解説。

全国農村教育協会

〒110 東京都台東区台東1-26-6(植調会館)
Tel.03-3833-1821 Fax.03-3833-1665